



## Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2021-2022 Vol.1

@加賀町ホール

2021年5月28日（金）開演 19:00

### プログラム

◆ブラームス 弦楽四重奏曲 第2番 イ短調 作品51-2

[Streich]Quartett [Nr. 2 a-Moll] für zwei Violinen, Bratsche und Violoncell[o], seinem Freunde Dr Theodore Billroth in Wien zugeeignet von Johannes Brahms Op. 51 Nr. 2

- 1 Allegro non troppo
- 2 Andante moderato
- 3 Quasi Minuetto, moderato
- 4 Finale. Allegro non assai

カルテット・アマービレ（篠原悠那・北田千尋・中恵菜・笹沼樹）

◆ブラームス 弦楽五重奏曲 第1番 ヘ長調 作品88

[Streich]Quintett [Nr. 1 F-Dur] für zwei Violinen, zwei Bratschen und Violoncell[o] von Johannes Brahms Op. 88

- 1 Allegro non troppo ma con brio
- 2 Grave ed appassionato — Allegretto vivace
- 3 Finale. Allegro energico

カルテット・アマービレ（篠原悠那・北田千尋・中恵菜・笹沼樹）・大山平一郎（ヴィオラ）

### 休憩

◆お客様とのダイアログ

演奏者に聞いてみたいことなどありましたらぜひ以下の方法か QRコードから質問を送信してください。

インターネットにて「sli.do」と検索→イベントコード「670032」をご入力ください。



## 演奏者プロフィール

【カルテット・アマビレ（弦楽四重奏） Quartet Amabile, Strings Quartet】

2016年9月難関で知られる第65回ARDミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門第3位に入賞、あわせて特別賞（コンクール委嘱作品の最優秀解釈賞）を受賞。15年桐朋学園大学在籍中のメンバー（Vn 篠原悠那、北田千尋、Va 中恵菜、Vc 笹沼樹）により結成される。磯村和英氏、山崎伸子氏に師事。16年第10回横浜国際音楽コンクール第1位及び全部門グランプリ受賞。第12回ルーマニア国際音楽コンクール第1位。第12回ミュージックアカデミーinみやざき講師特別賞、第26回リゾナーレ室内楽セミナー奨励賞、第37回霧島国際音楽祭賞、堤剛音楽監督賞を受賞。松尾学術振興財団より第26～28回松尾音楽助成・奨励を受ける。プロジェクトQ第13章でカルミナ四重奏団、今井信子氏らのマスタークラスを受講。17年4月NHK-FM「リサイタル・ノヴァ」に出演。19年にはニューヨークのヤングコンサート国際オーディションで第1位を獲得した。マルタ・アルゲリッチ、ダン・タイソン、クシシュトフ・ヤブウォンスキとの共演を重ね若手を代表するカルテットである。



**篠原 悠那** Yuna Shinohara [ヴァイオリン]

第80回日本音楽コンクール第2位、岩谷賞(聴衆賞)受賞。フジテレビ系アニメ「四月は君の嘘」ヒロイン役モデルアーティスト。EPIC SONYより、CD「Estreno」をリリース。メニューイン国際音楽アカデミー（スイス）を修了しディプロマを取得、桐朋学園大学大学院修士課程修了。辰巳明子、マキシム・ヴェンゲーロフ、篠崎史紀各氏に師事。室内楽を藤井一興、徳永二男、磯村和英各氏他に師事。使用楽器は1832年製G.F.プレツェンダ ex“カール・フレッシュ”（宗次コレクション）

© T.Tairadate



**北田 千尋** Chihiro Kitada [ヴァイオリン]

第7回仙台国際音楽コンクール第4位受賞。第65回全日本学生音楽コンクール全国大会中学生の部第1位。いしかわミュージックアカデミーIMA 奨励賞受賞。ミュージックアカデミーinみやざき優秀賞受賞。霧島国際音楽祭賞受賞。[SEP]東京・春・音楽祭、宮崎国際音楽祭、霧島国際音楽祭、別府アルゲリッチ音楽祭等に出演。[SEP]これまでに、日本フィルハーモニー交響楽団、桐朋学園オーケストラ、仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演。[SEP]ヴァイオリンを川本義幸、小室瑛子、村上直子、篠崎功子の各氏に師事。桐朋学園大学音楽学部卒業、同大学院修士課程修了。

©Lorenzo Barassi



**中恵菜** Meguna Naka [ヴァイオリン]

21歳でヴァイオリンに転向。桐朋学園大学音楽学部を経て、ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンマスター課程修了。Quartet Amabileのヴァイオリン奏者として、第65回ARDミュンヘン国際音楽コンクール弦楽四重奏部門第3位に入賞、2019年YCA International Auditionsにて優勝、その他多数優勝。テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHK-FM「リサイタル・パッショ」、ヴァイオラスペース、その他多数出演。CHANEL Pygmalion Days 室内楽アーティスト。Music Dialogue アーティスト。国内オーケストラの客演首席奏者を務める。

© T.Tairadate

これまでに、ヴァイオリンを佐々木亮、ヴァルター・キュスナーの各氏に師事。2021年4月より新日本フィルハーモニー交響楽団契約首席ヴァイオリン奏者。使用楽器は宗次コレクションより特別に貸与された Montagnana.



**笹沼 樹** Tatsuki Sasanuma [チェロ]

全日本学生音楽コンクール、東京音楽コンクール、日本音楽コンクールをはじめとする国内のコンクールで優勝、入賞後、カルテット・アマ・ピレのメンバーでの国内外の主要コンクールで受賞歴を多数持つ。ソリストとして新日本フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団をはじめとするオーケストラと共演。2017年学習院大学文化活動賞受賞。同校でのリサイタルは天覧公演となり、毎年開催されている。桐朋学園ソリスト・ディプロマ・コース修了。学習院大学文学部ドイツ語圏文化学科、桐朋学園大学音楽学部大学院卒業。

© T.Tairadate 堤剛氏に師事。CHANEL Pygmalion Artist。Music Dialogue アーティスト。日本コロムビアよりデビューアルバム『親愛の言葉』をリリース。使用楽器は 1771 年製 C.F.Landorfi (宗次コレクション)。



**大山 平一郎** Heiichiro Ohyama [ヴァイオリン]

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972年マールボロ音楽祭にヴァイオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミッシャ・マイルスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973年カリフォルニア大学助教授に就任。1979年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴァイオリン奏者に任命され、1987年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞（芸術祭優秀賞）を受賞。現在、The Lobero Theatre

Chamber Music Project (米国サンタ・バーバラ) 音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティストック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。

◇次回公演のお知らせ◇ **Music Dialogue デュオ・プロジェクト 第一弾! @ Hakuju Hall**

主催：一般社団法人 Music Dialogue 共催：Hakuju Hall/株式会社白寿生科学研究所

**★Duo Project コンサート★ 7月13日(火) 19:00 開演**

- ・ブラームス ピアノフォルテとヴァイオリンのためのソナタ ト長調 Op. 78  
大塚 百合菜 (ヴァイオリン)、三原 未紗子 (ピアノ)
- ・ブラームス ピアノフォルテとチェロのためのソナタ ホ短調 Op. 38  
水野 優也 (チェロ)、吉見 友貴 (ピアノ)
- ・R.シュトラウス ヴァイオリンとクラヴィーアのためのソナタ 変ホ長調 Op. 18  
水谷 晃 (ヴァイオリン)、上田 晴子 (ピアノ)

**★★字幕解説付き公開リハーサル★★ 7月9日(金)**

- ① 16:30 - 17:30 大塚百合菜 (ヴァイオリン)、三原未紗子 (ピアノ)
- ② 18:15 - 19:15 水野優也 (チェロ)、吉見友貴 (ピアノ)
- ③ 20:00 - 21:00 水谷晃 (ヴァイオリン)、上田晴子 (ピアノ)



・Duo Project について⇒ <https://music-dialogue.org/duo/>

・チケット詳細はこちら⇒ <https://teket.jp/g/95ydymert7>

## 作品解説

### ◆弦楽四重奏曲 第2番 イ短調 Op.51-2 (1873)

弦楽四重奏曲という曲種は18世紀後半、アマチュア演奏家たちが弾き楽しむ演目として楽譜出版業界を賑わせたが、19世紀には弦楽四重奏で演奏会を開くプロ奏者たちも増え、曲の総数も100年ほど夥しい数となって、そこから厳選された少数の傑作が新作の比較対象となってゆく。早くから多くの室内楽曲を世に送り出してきたブラームスが、この弦楽四重奏曲に関しては年齢40の年まで完成作をひとつも発表しない慎重さを見せたのも無理はない。幾多の試作破棄や修正を繰り返した末、彼は1873年に作品番号51のもと2曲の弦楽四重奏曲をベルリンのジムロック楽譜出版社から公刊。その表紙には彼の友人で、ヴァイオリンを手にプロ音楽家たちとも四重奏を楽しんだ医師テオドール・ビルロートの名が献呈先として大書されている(ビルロートは当時まさに先進的な消化器摘出手術で広く注目されつつあり、楽譜販売上の宣伝効果もあったことだろう)。劇的起伏の激しい第1番に対し、第2番は冒頭から抒情あふれる曲調。終楽章ではハンガリーの伝統舞踊のリズムが耳を捉える。

### ◆弦楽五重奏曲 第1番 ヘ長調 Op.88 (1882)

弦楽四重奏に弦楽器をもう一つ追加した編成で奏でられるのが弦楽五重奏曲。チェロを増やした例では自身チェロ奏者だったボッケリーニ(1771~95年に多数作曲)やシューベルト晩年の傑作(1828)が有名で、ブラームスの時代にも彼と親交のあったゴルトマルク(1835-1915)が1862年に名品を書いているが、より古く歴史を辿れるのはヴィオラが2挺になる編成の方。18世紀にミスリヴェチェク、M.ハイドン、モーツァルト、19世紀にもダンツィ、シュポーア、メンデルスゾーン、ゲーゼ、ブルックナーなど多くの作曲家が名品を残した。ブラームスは年齢30前後にヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ全てを2挺使う弦楽六重奏曲を2曲発表した20年ほど後、弦楽五重奏曲は四重奏曲よりもさらに遅く、ようやく年齢50手前でこの最初の完成作をベルリンのジムロック楽譜出版社から世に問うたが、これもヴィオラ2挺の作品となった。作曲者自身その仕上がりに自信を感じていた証言もありつつ、後年40ほど年下のツェムリンスキーが同編成の五重奏曲を書いて見せに来た時には「モーツァルトの作品には我々は敵わないよ」と首を振ってみせたという。曲は全3楽章形式。バロック舞曲のリズムや多声書法など古い時代の音楽作法の応用が随所に見られる。

(白沢 達生)

---

**Music Dialogue へのご寄付を通して、次の世代を担う演奏家たちの  
成長を応援していただければ幸いです。  
マンスリーサポーター募集中です！**

